

## あなたはどんな医者になりたいですか？

沖縄赤十字病院 外科  
安藤 美月 (21期生)

南風を読まれている皆様、こんにちは。今回は久しくされていなかった胸部心臓血管外科（以下、第二外科）の紹介とのこと、そんな貴重な一編を私が担っているものか腰が引ける気がします、思う存分、第二外科の魅力について語ろうと思っていますので、皆様どうかお付き合い下さい。

まず第二外科は國吉幸男教授率いる心臓血管外科を中心に構成されます。大学では開心術や開胸、開腹術による大血管手術を行う3つの心臓チーム、動脈瘤ステント治療及び末梢血管治療を行うステント・血管チームで構成される心臓血管外科と呼吸器外科の胸部外科で構成されています。大学にいと第二外科は心臓血管外科と呼吸器外科といった胸部外科の印象が強いかと思いますが、実は第二外科はそれだけではありません。沖縄県内外に散らばる26の関連施設では腸、肝胆膵、食道と消化器外科の他に、乳腺外科や内分泌外科の診療も行っています。そして動脈瘤のステント治療、腹腔鏡や胸腔鏡といった内視鏡補助下手術などの低侵襲手術をそれぞれの分野で積極的に取り入れており、日々技術の習得に励んでいます。そしてそれは検査にも同じことが言え、専門領域が広い分、内視鏡や気管支鏡といった多くの検査技術の修得も可能となっています。更に心臓疾患といった緊急性、なおかつ重症度の高い疾患を診る機会を多く得る分、全身管理について勉強出来る事も第二外科の魅力の一つ。漠然と外科には進みたいがその先の専門領域が決められないという方は、第二外科は専門領域が広い分、入局した後からでもいろいろ経験した後専門領域を選べるので安心かと思えます。

医局の雰囲気に関してですが、外科の基本はチームワークですから、みんな仲が良かったです。しかし正直なところ、心臓血管疾患を中心に扱っている分、現場はとてもシビアです。これも皆、本気で病気に真っ向から挑んでいるからこそ。厳しい顔つきで颯爽と足早に廊下を歩く姿は大学病院ではよく見かける第二外科医の姿です。緊急手術が多く、早朝から夜遅くまで病棟、ICU、OR、そしてERを行き来し、病院で朝日を浴びるのは数知れず…。それでも続ける理由は皆それぞれですが、私達はみな、責任と誇り、そしてやりがいをもって日々、病気と闘っています。意識のない瀕死の状況で運ばれた患者さんが目を覚ました時の感動を皆さんは感じた事がありますか？

医者になる動機は人それぞれです。そして今後、どんな医者になっていくのかも人それぞれ…。あなたはどんな医者になりたいですか？そして、患者としてはどんな医者に診てもらいたいと考えますか？

